

2022年11月17日

各位

株式会社リボミック

(コード番号：4591 東証グロース)

2023年3月期第2四半期決算説明会（質疑応答）

2022年11月16日（水）開催のアナリスト、機関投資家向け2023年3月期第2四半期決算説明会における質疑応答を記載させていただきます。

尚、決算説明会の内容につきましては、昨日掲載しました関連資料並びに後日配信予定の動画をご高覧願います^註。

1. 決算について

質問	回答
今期及び来期の営業利益見込について説明して欲しい。	当初は通期で24億円の営業赤字と予想しておりましたが、半期の支出では9億3千万円ほどとなっています。これは、予定していた試験等が少し遅れているためですが、現時点で、通期でも赤字幅が減少し、20億円程度になると見込んでおります。来期の営業利益についても、選択と集中を行うことで支出を抑えて、今期よりもさらに赤字幅を縮めさせる予定です。

2. RBM-007について

質問	回答
滲出性加齢黄斑変性（wetAMD）治療剤としての開発について、提携活動状況を詳しく教えて欲しい。	抗VEGF薬とは作用機序が異なるRBM-007の可能性を高く評価してくださる海外の企業と協同で、未治療患者に対するフェーズ2試験を行うための提携について協議を進めてまいりました。その骨子がほぼ纏まってきましたので、近々、その内容について開示できるものと考えております。
その提携に際しての御社の財務負担について教えて欲しい。	当社の財務負担はありません。

<p>増殖性硝子体網膜症（PVR）を新規適応症とする開発のスケジュールを教えてください。</p>	<p>説明会のスライド17ページ「今後の展望」の部分にあるように、当社はRBM-007の適応拡大として、網膜剥離や硝子体手術後に生じる重篤な合併症の一つであるPVRに対する治療効果を検証する予定です。そのきっかけは、RBM-007の医師主導治験（TEMPURA）を実施いただいた責任医師Maturi博士の助言によるものです。TEMPURA試験の過程で、激しい眼底出血を伴う未治療のwetAMDの患者様において、RBM-007が劇的に奏功して眼底出血も速やかに消失したという結果から、PVRの症状とよく付合しており、RBM-007はPVRに対する新薬になるのではないかとのご指摘でした。</p> <p>PVRはまだ薬が開発されていないUnmetな眼疾患であるため、当社としては、最初に、PVRの動物試験に精通したアカデミアとの共同研究において、RBM-007の効果を検証した上で、その結果がポジティブであれば、医師主導治験等へと進めていきたいと考えています。幸い、RBM-007は米国でフェーズ2試験まで進み、薬剤の準備も整っているため、速やかにPVRに対するフェーズ2試験を開始できるということが、当社にとっては大きな利点となります。</p> <p>アカデミアとの共同研究については、近日中に契約締結とその内容を開示する予定です。</p>
--	---

3. DDS開発について

質問	回答
<p>ドラッグデリバリーシステム（DDS）としてのアプタマーの適用について、これまで活用事例がない理由、及びリボミックの強みを教えてください。</p>	<p>アプタマーを使ったDDSの成果が知られていないのは、薬剤を細胞内に取り込ませ、機能させる方法がまだ確立されていないためと考えています。</p> <p>DDS開発におけるリボミックの強みは、非常に結合性が強いアプタマーを迅速に作製できる点です。</p> <p>国内のアカデミア及び企業との共同研究を計画しており、弊社のプラットフォーム技術として、アプタマーのDDS適用のための技術開発を行っていきます。</p>

註動画の中で、抗ST2アプタマーであるRBM-009をRBM-007と言い違えた部分がありますが、訂正させていただきます。

以 上